

三水会会報

北里大学水産学部 同窓会会報 第50号

- 水産学部近況報告 P. 2~P. 3
- 定期総会報告 P. 4
- 職場紹介 P. 5
- 関東地区親睦会 P. 6

第50号

平成17年9月15日発行

編集者 内藤 文隆
発行 三水会(北里大学水産学部同窓会)
事務局 〒246-0031神奈川県横浜市瀬谷区瀬谷5-22-1
TEL フリーダイヤル 0120-873-135
<http://www.ajt.co.jp/sansuikai>
E-mail sansuikai@ajt.co.jp

体育会報告

「見たい・知りたい・話したい」
三陸バスツアー・OB会案内他

P. 7

P. 7~P. 8

三水会会報



創刊号

昭和55年10月発行

三水会会報



第5号

昭和58年2月発行

三水会会報



第10号

昭和60年10月発行

三水会会報



第15号

昭和63年3月発行

三水会会報



第20号

平成2年9月発行

三水会会報



第25号

平成5年3月発行

三水会会報



第30号

平成7年10月発行

三水会会報



第34号

平成9年9月発行

三水会会報



第40号

平成12年9月発行

三水会会報



20周年記念号

2000年9月発行

三水会会報



第41号

平成13年3月発行

三水会会報



第45号

平成15年3月発行

歴代編集者

創刊～5号（2期） 田代 茂年／6号～33号（1期） 大野 良樹
34号～44号（6期） 川添 一郎／45号～（8期） 内藤 文隆

『近況報告』

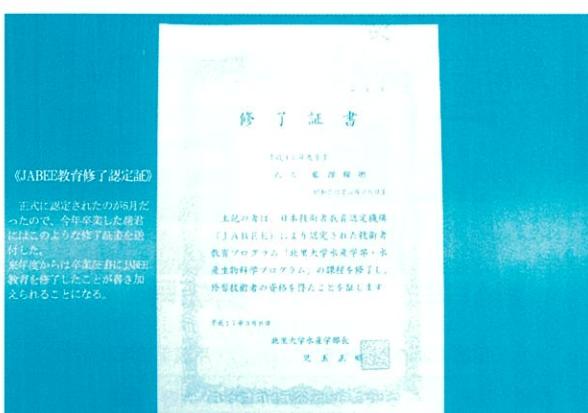
水産学部長 児玉 正昭

水産学部は今、年30回目の卒業生を送り出し、節目の年を迎えた。今年の卒業生171名を加えると卒業生の数は500人を超える。これら卒業生の多くは種々の企業で中心的な役割を果しながら活躍しているが、会社を起し経営者として優れた業績を挙げているもの、公務員として国や地方の水産行政や試験・研究で活躍しているものも少なくない。特に岩手県の水産分野で活躍する本学部卒業生は、北大出身者について多いと聞いている。さらに、大学、高校、中学などで教員として、次世代を担う若者の教育に情熱を注ぐもの、変わったところではラジオのペーパーナリティーや俳優、文筆家など等、極めて多様な分野で活躍しているのが本学部の卒業生の特徴である。最近、少子化問題と絡め大学の方に関する議論が盛んになりつつある。この議論が盛んになりつつある。この議論から引き出された考え方と、それに対する我々の対応を近況として述べておこう。

大学の役割を整理して考えると、教育・研究、地域貢献の3つに要約されるだろう。教育は大学の最も重要な使命である。本学部では多様な経験を基に、自分の研究やその関連分野の知識や考え方を教える形で教育をおこなってきた。このやり方は個性的な学生を育てる意味で優れた方法であるが、時に知識や考え方が偏ってしまうことも否定できない。そこで、これまでの教育を集約して学部の教育目標を明確にすることにした。これはこれまでそれぞれの教員が持っていた教育目標を集約して明確な形で言葉に表したもので、これまでの教育を変えるものではない。ただ、これを実現する方法については厳しい議論が行われ、それぞれの教員が授業のやり方を見直し、判りやすい授業に改善する努力を継続するようになった。これにより学生の授業への出席率は飛躍的に向上するなど、本学部の教育には大きな変化が起こりつつある。変化のないところに発展はないという言葉が実感を持つて感じられるこの頃である。研究が盛んなことは本学部の伝統である。これについては確実に若い世代の教員に受け継がれ、研究活性性の指標となる国際科学研究費獲得率は北京大学の中ばかりではなく、全国の国公私立大学と比較しても高い水準を維持している。地域貢献も大学の大

きな使命の一つである。本学部ではこれまで、岩手県の水産関連事業への参加や、小中学校など地元教育機関への協力で地域貢献を果たしてきた。平成13年、三陸町は大船渡市に合併し、本学部は大船渡市の一員となつた。この合併により本学部は大きな変化が起っている。大船渡市は合併とともにすぐさま大学へ道路を整備した（写真1）。24時間営業のコンビニの誘致にも市の後押しがあつたと聞いている（写真2）。さらに市は、漁協や地元企業とともに連携事業を提案し、地域との関係はこれまでとは全く異なる親密なものとなりつづある。このことは、地域が本学部を構成員として認めたことを意味する。さらに水産県である岩手県も水産学の重要性に気付き始め、多くの若手教員が県の要望により研究を委託され地域への貢献を図っている。

このように、水産学部はこれまでの実績を基に改善を重ねつつ確実に発展している。このような実績を基に、本学部は今年、日本技術者教育認定機構（JABEE）による認定された技術者教育プログラム「東京大学水産学部・水産生物学プログラム」の課程を終了し、外型技術者の資格を得ることを認めた。この認定証が授与されたことは我々にとって大きな喜びである（写真3）。



《大学への通学路》

歩道がついた二車線の道路が構内に続いている。道路を広げカーブも緩やかになった。完成直後のガードレールを破壊した不心得者もいたが、現在では殆どの車が安全運転を心がけるようになった。



《45号線浦浜交番脇にできたローソン》

店に入ると三陸にいることを忘れる。夜中の3時に行つても誰か学生の姿を見かける。



—若手研究者研究奨励金の募集—

第17回 北里大学同窓会若手研究者研究奨励金の 募集についてのお知らせ

- 1、応募資格者：北里大学卒業後15年未満の研究者（個人）
- 2、奨励基額：30万円
- 3、応募締切：平成17年12月末日
- 4、応募方法：応募要領と用紙は同窓会事務局にありますのでご請求下さい。

TEL.03-3446-7309

平成17年度

三水会定期総会報告

〔平成17年度事業計画〕

平成17年度定期総会が5月21日(土)午後6時より本学白金キャンパス3号館3802会議室におい

理事・代議員48名が出席（内、委任状16名）で総会は成立いたしました。議長に中田裕二氏（3期食品）、議事録署名人に上田俊郎氏（5期増殖）、中村義幸氏（10期増殖）を選出し議事に入り上程された前年度事業報告・收支決算書・平成17年度事業計画案・同収支予算案すべて原案通り賛成多数で可決されました。総会において承認されまして、昨年度の決算・本年度の事業計画予算是次の通りです。

1. 会報の発行

同窓生の動向、学部の現況、各種の情報などを内容とした会報を平成17年9月と平成18年3月の2回発行する。

2.
「水産学部ごより」の記述

本学水産学部の発行する「水産学部だより31号」を増刷し、全会員に配布する。

3. 会員の現況の把握

全学同窓生と連携し、不明会員の調査など名簿情報の正確性の向上に努める。

千萬
3,990,000
—
507,000
1,069,158
1,000
500,000

就職ガイダンスの開催

平成17年度予算	
目 的	金 額
1.会員登録料	50,000
2.会員登録料補助	50,000
3.前年度継続金	50,000
4.賃金利息	50,000
5.隸収入	50,000
	70,000
	70,000
	70,000
	50,000
	50,000
	50,000
	50,000
	87,158
	87,158
合 计	

魚台每推貴兒育英公序

支山の 科 目	
1. 学費費	
(1) 公海航行費	
(2) 学んだりかかる食費	
(3) 教育料の開墾費	
(4) 同窓会活動費	
(5) 大学生の懇親会費	
(6) 運動部活動費	
(7) 他就学ガゼン費	
(8) 活動海難遭死冤苦合會費	
2. 通院・管所費	
(1) 病院・通信費	
(2) 会員費	
(3) 給食費	
(4) 事務官賃	
(5) 優待食	
3. 手綱費	
合 計	

支出の内訳	収入の内訳					
	科目	金額	計算式	科目	金額	計算式
1.会員登録費	1,000,000	1,000,000	会員登録料	4,835,000	4,835,000	
2.学年会会員登録料	1,000,000	1,000,000	会員登録料	4,835,000	4,835,000	
3.学生会会員登録料	100,000	100,000	会員登録料	472,000	472,000	
3.講演会の開催費	100,000	100,000	報酬料(講師料)	472,000	472,000	
4.研究会の開催費	950,000	971,160	会員登録料	1,185,348	1,185,348	
5.会員登録会費	250,000	242,000	会員登録料	1,185,348	1,185,348	
6.(大学)学生会の連絡会費	250,000	163,000	4.会員登録料	1,000	823	
7.講演会助成金	200,000	200,000	助成金	500,000	500,000	
8.就職ガイダンス	250,000	139,490	報酬料(講師料)	809,756	809,756	
9.熱愛地図贈呈費会員合計	50,000	50,000	会員登録料			
10.新規会員登録料若葉組合	50,000	50,000	会員登録料			
2.会員登録料	7,000,000	7,000,000	会員登録料			
3.会員登録料	380,000	423,414	会員登録料			
2.会員登録料	800,000	826,697	会員登録料			
3.会員登録料	250,000	203,810	会員登録料			
4.事務局会費	112,000	834,443	会員登録料			
5.運営会費	50,000	20,000	会員登録料			
1.会員費	141,140	1,276,656	会員登録料			
1.(1)会員登録料		116,500	会員登録料			
2.(2)ゼミナル会員登録料		21,000	会員登録料			
3.会員登録料	141,140	1,000,156	会員登録料			
合 计	6,793,349	7,102,927	合 计	6,793,349	7,102,927	

支出の部		収入の部	
科 目	予算額	科 目	予算額
①事業費	3,600,000	①会員会員会員費	3,900,000
(1)会員登録費	1,750,000	(2)会報誌発行費	507,000
(2)学習会費	250,000	(3)新規会員の獲得	800,000
(4)同窓会活動費	200,000	(5)年度総額賛助会員	1,000,158
(6)学生会生徒の懇親会	100,000	(7)年会費	1,000
(8)講演会活動費	200,000	(9)年会費	250,000
(10)就職ガイダンス費	250,000	(11)年会費	50,000
(12)熱烈な歓迎祝賀会費	50,000	(13)講師料	500,000
上記合計-管理費	2,770,000		
(1)印刷・通信費	620,000		
(2)会員費	700,000		
(3)会員登録費	250,000		
(4)事務局費	950,000		
(5)運営費	35,000		
小計費	97,158		
合 计	6,067,158	合 计	6,067,158

הנִזְקָנָה

関東地区的会員を主な対象とした親睦会を神奈川県内キャンプ場にて開催する。



「昭和55年度 北里大学水産学部同窓会総会」

昭和55年5月31日(土) 東大学士会別館にて開催

懐かしの写真館

『職場紹介』



10FA 中村 義幸

(旧姓: 府録)

同窓生の皆様お変わりございませんか。発行第50号という区切りのよい会報に今回職場を紹介する機会を与えて頂きましたので、ご案内させていただきます。

成績不良の私は首席ならぬ酒席で卒業させて頂き、旧衛生学部卒業の妻の実家がある鹿児島県に来て20年になります。(私の実家は札幌です)勤務先是鹿児島県の大隅半島に於て、関連グループ3社と共に廃棄物処理を中心とする環境関連事業を行っております。中小企業ならではの迅速で小回りの効く、地域密着型の対応を目指しています。当初の社員数は15名でしたが現在では70名の企業グループになりました。

「環境」という文字を「環」と『境』とに分解して、私なりの解釈をさせて頂くと、「環」は輪という意味で循環にも通じます。「境」は文字通り境(さかい)で、自然界との境界を現しているように思います。つまり全ての人は、生きていく上で「環境」との関わりをもつていることになります。さらには、業と

して「環境」に携わることは環境(わ)の境界上において、自然界と人間社会との橋渡しをする重要なポジションだと思います。

日頃の事業活動の中で、再生可能な有機系廃棄物の飼料化・肥料化を通じて地域内で効率の良い循環システムを立ち上げ、地域の活性化さらには持続可能な社会づくりに貢献出来ないだろかと常々考えておりました。

3年前より「食品リサイクル法」に呼応して、(有)えこふあーむどいう会社を立ち上げ食品残渣の飼料化に取り組み、河豚ならぬ黒豚を200頭放牧で育てております。水産学部を卒業して豚を飼っているのは私くらいではないでしょうか。

老人福祉施設や学校給食センター、レストランや事業所から収集した生ゴミを真空乾燥機にて加熱殺菌した後、乳酸発酵によりpHを下げ、腐敗菌の繁殖を抑えて独自の自家配合飼料を製造しております。つまり、豚は「生きた生ごみ処理機」の位置付けというわけです。

8月からは国の畜産草地研究所と県の畜産試験場と弊社の3者で、「焼酎廃液の飼料化」実験が2ケ年計画で始まります。よい結果が出ることになります。さらには、業と



適度密度の放牧を利用して、耕作放棄地等の遊休地や荒廃した森林の再生事業も行っています。4月には地元のボランティアの参加者と共に杉の伐採跡地に2500本のクヌギを植林しました。100年後が楽しみです。

国の政策で「バイオマスニッポン総合戦略」という追い風が吹いております。農学系の卒業生の出番です。「医食同源」「身土不二」という言葉から「食」の分野は健康や環境問題に直結していることが判ると思います。魚介類での生体濃縮という観点からも推察できますが、汚染された環境下では安全な食品は生産できません。

今後は山から海まで含めたトータルの体験・参加型環境保全事業を、地域と一緒にとつながって取り組んで参ります。魚介類での生体濃縮という観点からも推察できますが、汚染された環境下では安全な食品は生産できません。



懐かしの写真館



「府録義幸君が学生の頃の三陸学園祭」
(写真提供-元写真部 水石博彦氏)

『関東地区親睦会に参加して』

水産学部 水産食品学科

17期卒 内田 康規

平成17年7月24日の日曜日に関東地区親睦会が、神奈川県の『神之川キャンプ場』で開催されました。私自身は、前回の神之川、昨年の富津地引網に続いて、今回で3回目の参加です。開催の1週間前の週間天気予報では、晴れマークでしたが、当日は、台風7号の影響でお日様が時々顔を出すこともありました。が、雨がボツボツと落ちてくるあいにくのお天気でした。開始時間前になんか雨が落ちてきた時は心配でしたが、無事開催されました。

釣りの際は、放流してくれるまではなかなか釣れず、子供たちも飽き始めましたが、放流され、虹鱈が掛かった瞬間の子供の目は、驚きとともに必死になっていました。みんなが釣れ始めた時、私は妻や子供が釣った虹鱈の飲んだ針を一生懸命に外しており、少し出遅れてしましましたが、それなりに釣ることができました。

虹鱈つかみ取り大会の時は、子供たちみな、目を輝かせながら虹鱈を追いかけていました。最初はなかなか捕まることができず、悪戦苦闘をしている様子でしたが、次第に捕ま

えたコツをつかんだのか、魚が弱つてたせいか、最後は全ての魚を捕まることができました。我が家のは娘たちも前回参加したときは、長女はお情けで2匹程度分けて頂き、次女に至っては魚がいる所に入るのを怖くて、抱かれて眺めているだけでした。今回は2人で10匹ほど捕まえていました。でも次女にとって一番うれしかったのは、つかみ取りの表彰式で花火セットを受けた事の様です。

さて、我が家が今回参加した理由は、親睦を深める、子供たちに自然を体験させるなどでしたが、ひそかに釣り部門での優勝を狙つております。本当にありがとうございましたが、おそらくも2位でした。次回は、是非優勝を目指したいと思っております。

最後に、今回の関東地区親睦会開催にあたり、いろいろ準備をして頂きました、三水会事務局の方々に厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。



「内田さんご一家」



平成2年 子供達マスつかみどり風景



昭和61年9月21日
九十九里浜での地曳網

懐かしの写真館

『体育祭開催報告』

体育祭実行委員長 中村一馬

今年の第三十二回体育祭は、まだ肌寒い5月の14、15日に行われました。

昨年はソフトボール、ドッヂボール、3on3の3種目でしたが、今年はそれにフットサルを加えた4種目を行いました。ソフトボールは9チーム117人、ドッヂボールは4チーム35人、3on3は5チーム23人、フットサルは7チーム49人、総勢延べ224人が体育祭に参加し、それぞれの種目で大いに盛り上がっていました。

ソフトボールはグラウンドで行い、トーナメント戦で争いました。他の3種目は体育館内で行い、総当たり



戦で競い合いました。当日は5月に

しては少し涼しく、唯一グラウンド

で行われたソフトボールの選手や応

援している人達は寒そうにしていま

した。しかし試合では熱い場面が多

くホームランを打つたり、ファイン

プレーが出たりすると、黄色い声援

が上がっていました。ドッヂボール

は制限時間5分で内野が0になつた

時点で終了というルールでしたが、

ほとんどの試合が制限時間切れを待

たずに勝負がついていました。体育

祭には珍しく女子のみのチームもあ

り、そのおかげもあってか皆さんと

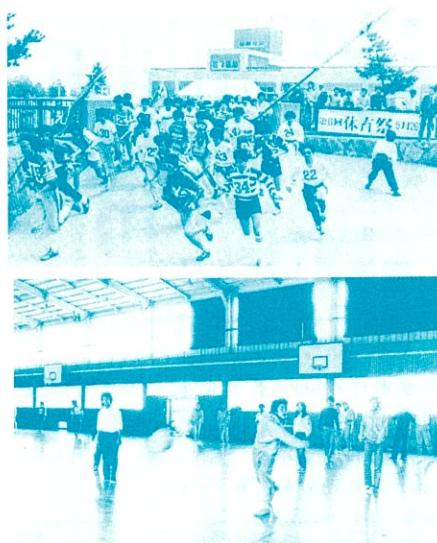
ても楽しそうでした。3on3は参

加者の人達が皆さん上手で、とても

動き辛そうでしたが、試合を重ねる

につれ慣れていったようで動きが変

わり、白熱した試合が多かったです。



懐かしの写真館

昭和59年度 体育祭、5月26~27日

見たい・知りたい・話したい

■シンポジウムのお知らせ

川内浩司先生の功績を記念し、水産学部の主催により下記の要領でシンポジウムを開催いたします。演者は国内外の著名な研究者であり、五つのテーマについて講演いたします。興味のある方は是非ご参加願います。参加費は無料です。なお、終了後に懇親会を開きます。

「魚類ホルモン研究の新世紀」

《開催日》 平成17年12月9日(金)

《場 所》 北里大学薬学部コンベンションホール

《時 間》 9:30~17:30

[生殖] 長濱嘉孝(基礎生物学研究所)、Stacia A. Sower(ニューハンプシャー大学)

[成長] Penny Swanson(北西水産科学センター)、Cuming Duan(ミシガン大学)

[適応] 平野哲也(ハワイ大学)、竹井祥郎(東京大学)

[回遊] 浦野明央(北海道大学)、上田 宏(北海道大学)

[進化] 野崎真澄(新潟大学)、川内浩司(北里大学)

《連絡先》 高橋明義(北里大学水産学部:0192-44-1925, akiyoshi@kitasato-u.ac.jp)

■LME同窓会のお知らせ

海洋分子生物学研究室では、11月26日(土)午後6時から東京都内の新高輪プリンスホテル・桃李にて「LME同窓会」を開催致します。昔話いや近況を楽しく語り合うことができる楽しいひとときです。皆様ふるってご参加ください。

《連絡先》 森山俊介(北里大学水産学部:0192-44-1926, morisuke@kitasato-u.ac.jp)

■『三陸バスツアー 2005』開催

今年も、来る10月14日(金)、15日(土)、16日(日)で、三陸バスツアーを企画しております。

今年は10月15日に井田先生の特別講義が開催されます。夜には井田先生を囲む会と称して、親睦会が催される予定です。漁り火祭も開催中ですので、昔を懐かしんで散策することも出来ますし、学生たちとの交流も楽しめると思います。ご家族、友人お誘い合わせの上、奮ってご参加ください。

《日程》

10月14日(金) 23:00 新宿発

10月15日(土) 7:00 釜石着 橋上市場での買い物

8:30 研修所着 朝食

自由時間

15:00 井田先生による特別講演「世界お魚行脚」

(水産学部マリンホール第一講義室、終了後記念写真撮影)

18:00 懇親会(三陸研修所)

(三陸の海の幸をボランティアの学生による様々な企画と共に楽しめます)

10月16日(日) 12:00 三陸発

21:00 新宿着

《参加費》 バス往復、研修所1泊(朝食2回、夕食1回)

一人 総額10,000円

井田先生を囲む会参加の場合(バス往復、研修所1泊、朝食2回、懇親会)

一人 総額15,000円

《申し込み》 井田先生を囲む会への参加の有無を明記してお申し込みください。

FAX 0120-873-135 メール sansuikai@ajt.co.jp

■最終のご案内『井田先生を囲む会』開催のお知らせ

井田先生の水産学部赴任33周年を記念して「井田先生を囲む会」を三陸で開催します。

三陸での開催はこれが最初で最後となります。

当日は漁火祭も行われておりますので懐かしい三陸を満喫できます。井田先生による特別講演の後、三陸研究所にて懇親会を行います。さらにダイビングライセンス保持者を対象に、三陸ダイブツアーを企画しています(10月16日ワンダイブ、先着10名程度)。

詳しい案内は三水会HP(<http://www.ajt.co.jp/sansuikai/index.htm>)をご覧下さい。

《日時》 10月15日(土) 井田先生による特別講演「世界お魚行脚」

(水産学部マリンホール第一講義室)15:00~

懇親会(三陸研究所)18:00~

《交通》 三水会では漁火祭バスツアーを企画していますので、関東方面からご参加の方はこのバスを利用すると便利です。詳しくは三水会にお問い合わせください。個人でおいでの方は、東北新幹線水沢江刺駅で下車し、駅レンタカーを利用する方が便利です。

《会費》 6,000円(井田先生への記念品代含む)各地の地酒やご厚志大歓迎です。

※三陸ダイブツアー

10月16日(日)10:00 崎浜港集合。

参加費=2,000円(タンク、ウエイト、レンタル代含む。他の機材は各自準備)

《宿泊費》 申し訳ございませんが、各自で手配願います。宿泊場所の情報は三水会HP上でご案内しております。
(<http://www.ajt.co.jp/sansuikai/index.htm>)

漁火祭バスツアーに申し込まれる方は、三水会にお問い合わせ下さい。

《申し込み》 9月10日までにE-mailかFAXで下記までお申し込み下さい。(参加者の名札を準備しますので、卒業年度、研究室、クラブ等もお知らせ下さい。)締め切りを過ぎた場合でもなるべく対応いたしますので、下記までお問い合わせ下さい。

《申し込み先》 朝日田 卓(9期) 北里大学水産学部水圈生態学研究室

E-mail : asahida@kitasato-u.ac.jp FAX : 0192-44-2125